



花名 トケイロ

(財)兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター

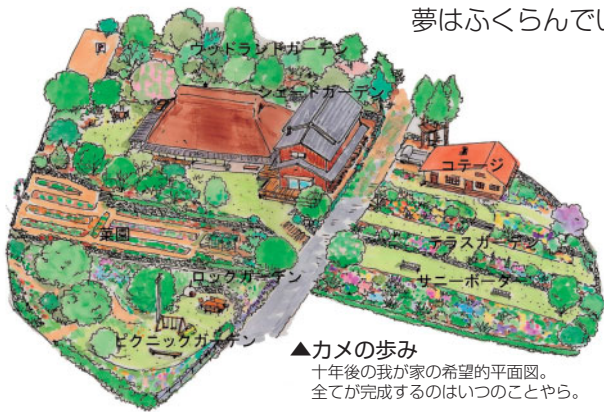
田舎暮らし、その日暮らし

第2回 「土づくり」

月江 成人：ホルティカルチャリスト (株)プランタス代表
4年前に北播磨の小さな農村に移住。築100年以上の古民家を改修しながら、ゼロからの庭&畑作りに取り組む。

憧れだった茅葺の古民家に引っ越し、次は理想の庭づくりに着手。あそこにはテーブルをおいて、その隣にピザ釜をつくって、そしてここにはウッドデッキをつくって・・・私にとっては、できるだけ多くの植物がさまざまな環境で育ってくればそれで幸せなので、シェードガーデン(日陰に育つ植物を集めた庭)にロックガーデン・・・などなど、家族それぞれに

夢はふくらんでいく。



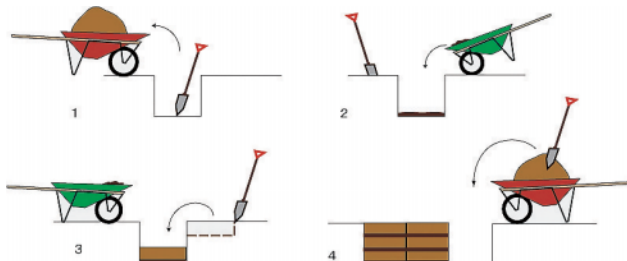
まずは、宿根草を組み合わせた見本園にすべく、日当たりのよい場所にサニーボーダーと銘うった長い花壇を作ることにした。長らく使われていなかった土地だったから当然雑草だらけ。耕耘を兼ねた除草が最初の大仕事だ。機械を入れれば事は簡単に進むのだが、ドクダミやスギナがひどくはびこっているため、たとえ機械で耕耘したところで結局は雑草の地下茎を切り刻んで大量繁殖しているようなもの。そう考えると頼

りになるのは、自分の体と1本のスコップ。ひたすら掘っては、根を丁寧に取り除いた。

家の裏側は東向きだが杉林に囲まれているため、午前中に数時間ほどしか光が当たらない環境。ここはシェードガーデンに。何も考えずに掘り始めたのだが、間もなく後悔することに。スコップで掘り返そうにも1cmたりとも土の中に入ってくれない。つるはしを使って掘れども出てくるのは石ばかり。3分の2以上は石だ。もうやめようと思ったものの、「食卓から眺められるきれいな庭をつくる！」と、豪語した手前、後には引けない。こちら数ヶ月にわたる孤独な戦いが続きやっと完成。

当然ながら植物を栽培する上で土は生命線。目に付く場所ではないのでつつい手を抜きたくなるが、スコップが簡単に入らないような状態では十分に根を張ることができず、その結果、乾燥などの環境の変化に弱い植物ができあがってしまう。面倒でもきちんと土づくりをすれば植物はいきいきと育ち、大きく広がった葉は地面を覆って雑草の発生をも抑えてくれる。

などと、なかなか前に進まない庭づくりにやきもきしている家族への言い訳を考えつつ、今日も相棒のスコップと共に土づくりの戦いは続く。



▲我が家の土壌改良

1. 深さ30~40cm程度の土を全て掘り取る。
2. 一番底に腐植質(腐葉土、パーク堆肥など)を入れレーキでならす。
3. 隣から約1/3程度の土をもって来て埋める。
4. これを数回繰り返しながら土壌改良していく。全部終わったら最後にもう一度腐植質を表面に敷き詰め、最後に耕耘機で攪拌する。水はけの悪い場所では、パーライトなどを入れて排水の確保を図る。



▲シェードガーデン

石との格闘でようやく形ができてきたシェードガーデン。ウラボシ(フウチソウ)は日本特産の優れた宿根草。乾燥にも強く一旦根付けばほとんど特別な管理は必要としない。ギボウシ、アスチルベなどと組み合わせると簡単に日陰の庭を演出することができる。

ガーデンクラブの紹介

昆陽南公園苗圃を活用する会(伊丹市)

代表 辻井 玲子

○発足の経緯

“みんなで楽しむ!!”をモットーに、花と緑の地域づくりを目的として平成17年11月に設立しました。伊丹市公園アダプト制度を活用して、私たちボランティア団体と伊丹市、(財)伊丹市公園緑化協会が合意書を取り交わし、それぞれの役割分担を決めて協働で公園の維持管理をしています。

○活動内容

花壇の維持管理、公共施設(H23.7月現在21箇所)への花苗供給、種子まき、育苗などを会員34名が3班編成で毎日行っています。昆陽南公園を彩り、憩いの空間を創りあげているほか、学校などの花壇づくりも支援しており、地域の交流を深めています。



平成22年度 春花壇

苗の生産量は、年間15,000ポットにもなります。噂を聞いて公園を訪れる人が増え、花づくりを通して住み良い、美しい街づくりへと活動の輪が広がっています。

平成21年に「第19回全国花のまちづくりコンクール」において、団体部門で「花のまちづくり優秀賞」を受賞しました。それが縁で今年5月には「全国花のまちづくり三田大会」でプレゼン発表する場を与えていただきました。

会員にとっては、昆陽南公園にかかわってきた努力が報われる嬉しい出来事でした。



秋の植栽作業

これから、昆陽南公園をすばらしいものにするため、みんなで頑張っていきたいと思っています。

アシアン・ユリオプス(芦屋市)

代表 廣井 眞智子

○発足の経緯

平成17年、兵庫県立淡路景観園芸学校「まちづくりガーデナーコース」27名の受講生によって造られた花壇を、有志で維持管理しようと発足させました。



運河の畔を花と緑で潤す

名前の「アシアン(Asian)」は、「アジアの」と「芦屋の」をかけており、「ユリオプス」はユリオプス・デージー(人目を引く花の意)から引用しています。

「南アフリカ原産のユリオプスがアジアの芦屋で人目を引かんばかりに美しく飾る花壇」というところでしょうか。兵庫県立淡路景観園芸学校平田富士男先生に提案していただきました。

○活動内容

芦屋市をはじめ、隣の神戸市東灘区や西宮市からも散歩に来て頂き、知らない方々との会話がはずみ、素晴らしい交流の場になっています。



コバノミツバツツジの周りを除草中

グループ同、植栽も写真撮影も上手になり、毎年いろいろな賞を頂けるようになりました。

芦屋市のオープンガーデンにも毎年参加し、好評です。

何よりも嬉しいのは、私がお手本にしている、淡路景観園芸学校の庭園に似ていると来訪者に時々言っていただけることです。

しだれ桜の知られざる名所でもあり、芦屋市花のコバノミツバツツジも45株増えました。

お弁当を持って是非お越し下さい。

- 2006年 ひょうご花と緑のコンクール kiss FM賞
- 2007年 ひょうご花と緑のコンクール 兵庫県造園緑化組合連合会賞
芦屋市花と緑のコンクール 入賞
- 2009年 芦屋市花と緑のコンクール コミュニティ部門入賞
- 2010年 ひょうごまちなみガーデンショー (社)日本家庭園芸普及協会賞

NPO法人加古川緑花クラブ(加古川市)

代表 目崎 幸治

○発足の経緯

加古川市の「緑の基本計画」に基づき、平成14年に「花とみどりの街づくりリーダー養成講座」が開設されました。その修了生が中心となり、地域での実践活動を行うために平成17年12月に当クラブが発足しました。現在会員数は112名です。

○活動内容

日岡山公園を拠点にして、毎週水曜日を定例活動日としています。市民の憩いの場にするために、園内の花壇やモニュメント等の管理や道しるべの設置、除草、コバノミツバツツジの増殖推進などの緑化活動をしています。公園のリニューアル計画についても積極的に参画しています。毎年4月には、園内で行われる「花とみどりのフェスティバル」で、花壇めぐりを開催し、公園の植物を案内するインタープリターの実践も兼ね、公園のPR活動をしています。

また、加古川市から依頼されて、養成講座受講時に制作した

7か所の街角花壇の維持・管理もしています。昨年度からは、養成講座の運営についても委託を受け、後継者づくりにも協力するようになりました。

さらに、近隣の小学校の校外体験学習(春→花壇への植栽体験、冬→落ち葉腐葉土作り)の協力も行っています。

その他、会員の親睦と能力アップのため研修バスツアー、花苗作りなどの活動も行っています。

こうした緑化活動を地域に定着させ、花と緑を通じて、美しい街づくりの実現に貢献しようと考えています。



街角花壇(のこのこ前花壇)



日岡山公園の花壇めぐり

三洋電機(株)洲本園芸クラブ(洲本市)

代表 芝 寿郎

○発足の経緯

1997年に草花を愛する社員が集まって結成しました。現在25名の部員が、四季折々の草花を育てて、花壇づくりに精を出しています。

○活動内容

4年前には、会社駐車場の雑草地帯の斜面を除草し、工場内にあった日本水仙の球根を植栽しました。一面に植栽したことにより群植美が観賞でき、花の白と黄色がやさしく春の訪れを告げてくれると共に、甘い香りが漂ってきます。

今年度は、兵庫県の「県民まちなみ緑化事業」を活用させていただき、社内の空き地にシマトネリコ、ベニカナメモチ、コクチナシ、サツキを植栽して、園芸クラブの庭園「サンガーデン」を新設できました。菜の花、ヒマワリ、コスモスも種蒔き



多目的ホール前花壇

から行っており、咲いた花を従業員にプレゼントし、大変喜ばれています。植栽後の維持管理は大変ですが、部員一丸となって取り組んでいます。

また、ガーデンショーなどの見学、研修会、勉強会等にも積極的に参加して、園芸知識の向上に努めています。

その他、マツやサクラの植樹、森林ボランティアにも取り組んだり、食堂の残飯を原料とした有機肥料を追肥として活用して、それを1、8月を除く毎月第2土曜日に「淡路県民局」を窓口として地域の方々に無償でお配りするなど、環境にやさしい園芸を目指しています。

今後も、環境に配慮した園芸活動を通じて、従業員や地域の方々に安らぎを感じてもらえるようなクラブ活動を行っていきます。



サンガーデン

イベント報告

ひょうごローズクラブ創立5周年 記念総会・講演会が開催されました！

ひょうごローズクラブの総会・講演会が6月18日(土)に湊川神社・楠公会館で行われました。194名の会員をはじめとする参加者は、ヴァイオリンとピアノによるミニコンサートとバラに関する講演会やバラ展示会、ローズティーの試飲等を楽しみました。また園芸相談コーナーも設けられました。



オーガニックガーデンで
365日の内100日咲くバラ
を育てたい!

化学薬品に頼らない「地球にやさしいバラづくり、庭づくりの栽培法」にチャレンジし続け、主婦等に圧倒的な支持を受けるバラ研究者、梶みゆきさんの講演。



クライスラーのヴァイオリンの名曲に
聴き惚れる...



艶やかに咲き誇るバラ、バラ、バラに、うっとり。



ハーブティーの
奥深い魅力を
皆さんに伝えたい!

日本ハーブティー協会理事長、榎本三枝子さんの講演。
心を満たし、健康と美にも役立つハーブティーの魅力について、
教えていただきました。



ご案内

ひょうごローズクラブでは、研修旅行や各種講習会を計画しています。
花緑を愛する多くの方々のご参加をお待ちしています。
お問い合わせは、ひょうごローズクラブ事務局まで(TEL 078-918-2405)

恒例 研修旅行 ひらかたパーク「ローズガーデン」&国華園を訪ねる 10月21日(金)

小山内健氏※に、京阪園芸「クリフトン at 京阪」を案内していただきます。今を盛りと咲き誇るバラの魅力をご堪能下さい。国華園では、溢れる園芸グッズを見て、自分流の道具やお気に入りの苗探しをお楽しみ下さい。

※京阪園芸所属のローズソムリエ。NHK「趣味の園芸」講師。
TVチャンピオン「バラの花通選手権」2回制覇。

乾燥バラの 色と香りを楽しむテクニック 10月23日(日) 13:30~15:00

場所：須磨離宮公園

レストハウス2階

講師：星川雅子氏

(神戸布引ハーブ園副園長)

バラを美容と健康に生かし、

さらに至福のひとつときも楽しむ。

プリザーブドフラワーでオシャレなクリスマスリースを作る 12月2日(金) 13:30~15:00

場所：花と緑のまちづくりセンター研修室

講師：平尾ひろ子氏(フラワーコーディネーター)

人気のプリザーブドフラワーで、クリスマス
気分を盛り上げましょう。



プチセレブランチ &バラのお話(仮題)

11月中旬 11:00~13:30

場所：未定

講師：未定

緊急報告

がんばろう日本！兵庫の花緑団体が 東日本大震災被災地支援へ！

兵庫県の花緑団体による東日本大震災被災地への支援活動に同行しましたので、その概要を報告します。

8月1日から3日まで、あわじオープンガーデン実行委員会のメンバーとひょうごガーデンマイスターの有志等計7名が宮城県石巻市の仮設住宅に花苗やプランター、種子などの園芸資材を持参し、地元の方々と共に花壇やプランターを設置しました。

それら園芸資材は、4月に開催したオープンガーデンの来園者等による義援金で購入したり、実行委員会のメンバーが寄付した種子や育てた苗、花木類、そして姫路花き市場から無償で提供いただいたもので、花・野菜苗類合計約2,000鉢、プランター120個と培養土を満載したトラックと乗用車の2台に分乗して丸1日10数時間かけて宮城県に向かいました。

石巻市に向かう途中、津波の被害を受けた地域を通過しました。支援先の選定など現地のコーディネーターをお願いした宍戸多恵子さん（日本ハーブソサエティー仙台支部長）から今回の津波が何もかも奪い去ったとお聞きしました。多数の重機が復旧工事のため動いており、テレビの報道で何度も見ていたとはいえ、実際にその場に立つと、圧倒的な被害の惨状は阪神淡路大震災を経験した私たちでさえ目を覆うばかりの光景でした。

支援先の知的障害者施設、社会福祉法人石巻祥心会の敷地には、仮設住宅が42戸建設されており、施設の入所者や職員、宍戸さんたちも加わり、総勢18人でプランターに植え込み、花壇、菜園、集会所の日除け用緑のカーテンも設置しました。きれいに植栽された花壇やプランターが配置された仮設住宅や通路は、見違えるようになりました。職員やコーディネーターの方々にとても喜んでいただき、施設の入所者や仮設住宅の方々の表情も明るくなったように感じられ、宮城県まで支援に行ったメンバーも花と緑の癒しの効果を実感しました。限られたわずかな時間でしたが、これからも宮城県のボランティアグループとの連携を強めて、復興が進むまで支援が続くことを願っています。

なお、今回の活動は、10月2日（日）に開催するひょうごまちなみガーデンショーの花と緑のまちづくりフォーラムで報告されます。



運び込んだ花苗や資材類



すてきな寄せ植えもできました!!



野菜苗を植えつける



プランターを仮設住宅に設置



秋の園芸作業計画のポイント

～美しい春花壇を作るために～

緑の相談員 若松 康史

9月も半ばを過ぎると、暑さも和らぎ始め、辛かった夏の園芸作業からようやく解放されるようになります。秋花壇が色鮮やかさを増す一方で、春花壇の準備を始める時期でもあります。ここでは、春に向けた美しい花壇を作るためのポイントを挙げてみます。

自分に合った広さの花壇を

誰もが、さまざまな種類の花が咲き乱れる広い花壇にあこがれるものです。しかし面積が広いほど、花の咲く種類が多いほど、管理に追われ、本来の花を楽しむ感覚が薄れてしまうものです。管理を怠ると遠目に綺麗でも、実際は病害虫だらけで、次年の防除も困難になってしまいます。「花の誘惑に打ち勝つ」ことがむしろ美しい花壇を楽しみながら作れるといっても過言ではありません。

まずは、作業性を重視し、欠点となる環境を洗い出す「花の誘惑に打ち勝つ」ためには、



- 広さ・奥行きを、花がら摘みや除草など日常管理が容易にできる程度とすること
- 花壇で制限される要因（日当たりや水はけが悪いなどの環境）を挙げることです。

▲チューリップなどの球根類は開花期間が短いが色鮮やかなので春を演出するには必須のアイテム。

イメージを作って種類を選び組み合わせる

花壇の環境に適應できる種類を選びながら、花色、時期、草丈などを調べ、バランスを考えて花壇内のイメージを作ります。一年草だけでなく、宿根草や球根類を取り入れると、春の移ろいを感じながら、管理作業が一時期に集中せず、余裕を持って行うことができます。組み合わせの際は、宿根草や球根類は開花期間が短いので、開花期間の長い一年草と隣接させるようにします。また、開花時の株の広がりを考えて間隔をとりますが、殺風景に感じる場合は、

パークチップや石を敷くようにすると、見た目だけでなく、作業の際の足の踏み場も確保できます。



▲優しい色調の花壇。
宿根草は株の姿も美しく立体感豊かになる。

日当たり具合で配置を決定し、コンテナも有効利用

配置の際、日当たりは最も重要です。秋は太陽光の角度が低くなり、日当たりの悪い場所が現れます。特に植えつけ前、10月頃の日当たりをチェックしておきましょう。それは、この頃の太陽光の角度が、成長の盛んになる3月頃と同じであるからです。日当たりを好む種類は、植える場所に日が当たっているか確認してください。ただ、日当たりが悪い場所でも、高さのあるコンテナやスタンドを配置することで改善することができます。また、水はけの問題も解決することができるので、活用してください。



▲狭い花壇もコンテナを配置すると広く見える。
乾燥を好む種類はコンテナに植えると良い。

夏越ししたガーデンシクラメンの植え替え

ガーデンシクラメンは大型品種に比べて丈夫なため、夏を越して葉をつけた株をよく見かけます。小さな株のイメージがあるガーデンシクラメンですが、夏越し後の管理をしっかりと行くと、葉をどんどん出して大きな株になり、大型品種に見劣りしない位に多くの花が一斉に咲きます。今月中に植え替えて、豪華なガーデンシクラメンを鉢物として楽しんでみてはいかがでしょうか？

まず、鉢から静かに取り出し、根鉢の表面をほぐし取っておきます。鉢は2回り大きいか、球根の直径の3倍程度の大きさを選びます。用土は赤玉小粒6、腐葉土3、ピートモス1とし、元肥として緩効性肥料を規定量入れて混ぜ合わせます。球根は必ず土の表面から出して植え、鉢底から水が出る位たっぷりと水やりを行います。植替え後1週間位は明るい日陰に置き、その後は日当たりの良い場所で管理します。ガーデンシクラメンといっても、やはり雨のかからない場所で管理する方が蕾も腐らず綺麗に咲きます。水やりの際も株になるべくかけないように行って下さい。新しい葉を外側の葉にひっかける作業（葉組み）をしておくと、株の中心に日が良く当たり、花数が多くなりますが、太い鉄線をリング状にして株上に載せておくと、作業の手間も省けて便利です。

夏越ししたシクラメン▼

前年秋に3.5号ポットを購入後、夏越しさせて5号鉢に植え替えたもの。このように大株になって多数の花が咲く。



▲葉組み兼用リング

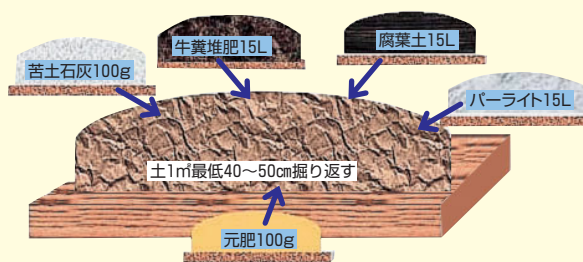
太い鉄線を鉢に巻きつけるとリングが綺麗に仕上がる。

花壇の土づくりについて

植物が元気に育つ土壌（いい土）にするには、①水はけを良くする②通気性を良くする③水もちを良くする④栄養をたっぷり含むようにしてやることです。このようにすることを「土壌改良」と言います。庭等に初めて植栽する時や花壇を作る時、植え替えの時には必要です。

まず、最低でも40～50cmの深さまで掘り返し、石などのガラを取り除き、苦土石灰を混ぜ込みます。苦土石灰を使う目的は、土の酸度を中和させ、肥料もちを良くする為です。使用量は1㎡100gを目安に混ぜ込み、1週間程寝かせます。その後、有機質のバーク堆肥や牛糞堆肥、腐葉土など土壌改良材を混ぜ込みます。土に混ぜる堆肥の量は1㎡15L位が目安です。腐葉土や堆肥などの有機物は、生育に不可欠な微量元素を補ったり、栄養分を分解して吸収しやすくする微生物の増殖を助けたりする働きをします。腐葉土や堆肥は、いわば植物の生育のための肥料ではなく、「土を肥沃にするためのもの」です。この他にピートモス、パーライトなども混ぜ込みます。パーライトは真珠岩を原料とした人工土壌ですが、保水性を良くする効果があり、粘土質の水はけの悪い土に混ぜると排水も良くなります。排水が悪い場合、パーライトは1㎡10～20L程度は必要です。堆肥等と違って土に残るものなので、堆肥のように毎回入れる必要はありません。最後に窒素・リン酸・カリウムを補う意味で元肥として「緩効性化成肥料」をすき込みます。

土壌改良された土は柔らかく、空気もたっぷり含み、水はけも良く、保水性、保肥性ともに適度なものになり、植物にとって有用な土壌菌が住みつくので、根の健全な生長が期待できます。



園芸相談コーナー

写真や実物をご持参いただきますと、お話ししやすくなります。

10:00～16:00

火曜日を除く毎日

Tel 078 (918) 2405

Fax 078 (919) 5186

Eメールアドレス: info_midori@hyogopark.com

★★お気軽にどうぞ★★

県下の公園紹介

第10回 ☆☆☆ 丹波並木道中央公園

丹波並木道中央公園は、舞鶴若狭自動車道丹南篠山インターチェンジから北西へ車で約5分、JR丹波大山駅から西へ徒歩約10分のところにあります。「丹波の森構想」に基づく広域レクリエーション、都市と農村の交流及び地域活性化の拠点となる広域公園として、平成19年に開園しました。

総面積70.9haで、園内には広大な樹林があり、散策路が整備されており、森林浴に最適です。また、都市公園としては唯一の製材所のある森林活動センターでの木工教室は好評を得ています。赤米や黒豆づくりに取り組んでいる棚田があり、そこで収穫した赤米の餅つき等の収穫祭や駅伝大会が11月中旬に行われます。

また、公園内の白亜期前期（約1億1000万年前）の地層から恐竜から鳥への進化を解明するうえで貴重な資料となる化石が発見され、今後の発掘により、さらなる貴重な発見が期待されています。

森の広場



子供木工教室



地元小学生らの田植え体験



企業のCSR活動による苗木



お問い合わせ 兵庫丹波の森協会共同体
〒669-2221 篠山市西佐古90番地 TEL. 079-594-0990

県下の相談所紹介

第2回 ☆☆☆ 尼崎市都市緑化植物園 (上坂部西公園)

尼崎市都市緑化植物園(上坂部西公園)緑の相談所は、尼崎市の緑化活動の拠点として緑化推進・啓発の事業を展開しています。花や緑に関する園芸相談はもちろん、各種展示会、「菊作り」、「寄せ植え」などの園芸教室に加えて、「キッチンガーデン」、「バラ作り」といった野外での実習型の教室も実施しています。そして、イベントでは毎年恒例の「春の花と緑のフェスティバル」や夏には「夜の植物園」、「セミ羽化観察会」などを開催します。温室(600㎡)では約600種類の多肉植物をはじめ、ハイビスカスなどの熱帯花木、パパイヤやマンゴーといった熱帯果樹を常設展示しています。また、当植物園ボランティアグループ「尼崎市都市緑化植物園グリーンヘルパー」は、園内の花壇管理や樹名板の作成設置、「園内樹木ガイド」を行うなど大活躍です。

緑の相談所と花壇



温室「多肉植物コーナー」



グリーンヘルパーによる樹木ガイド



専門相談日：第1月曜/小品盆栽 第3月曜/洋ラン 第4月曜/野菜
相談時間：10時~12時・13時~16時 休 み：火・水曜、祝日、年末年始
お問い合わせ 尼崎市都市緑化植物園・緑の相談所
〒661-0011 尼崎市東塚口町2-2-1 TEL/FAX：06-6426-4022

花と緑のまちづくりセンターだより 18号

- 平成23年9月1日(年4回発行)
- 編集発行 財団法人 兵庫県園芸・公園協会理事兼花と緑のまちづくりセンター長 石原 憲一郎
〒673-0847 明石市明石公園1-27 花と緑のまちづくりセンター
TEL：078(918)2405 FAX：078(919)5186
Eメール：info_midori@hyogopark.com